

## 4.1.2. 低地の水田

## (1) 植物

三島市内の梅名、長伏などの低地は水田に利用されています。水田やその周辺では43科152種の植物が確認されました。日本の稲作は、縄文時代末期から弥生時代にかけて九州に始まり、順に東へ広がっていったものと考えられています。水田周辺の雑草は、タイヌビエ、コナギ、スズメノテッポウなどイネの渡来とともに南方から入ってきた植物と、オモダカ、カワジシャなど元々日本の低湿地に生育していた植物から構成されています。

夏の水田は水がはられ、オモダカ、コナギ、タマガヤツリなど水湿地性の植物が見られます。一方、冬から早春の水田は水が抜かれ、タネツケバナ、ナズナ、スズメノテッポウなど夏の間種子が水田の中で生きることができる一年草<sup>(16)</sup>が見られます。また、水田周辺の土堤には、シロツメクサ、オオバコ、スギナなどが、水路には、ジュズダマ、ミゾソバ、イヌビエなどが生育しています。



春 2002/4/3



夏 2002/7/9



秋 2002/10/10



冬 2003/1/9

(梅名)

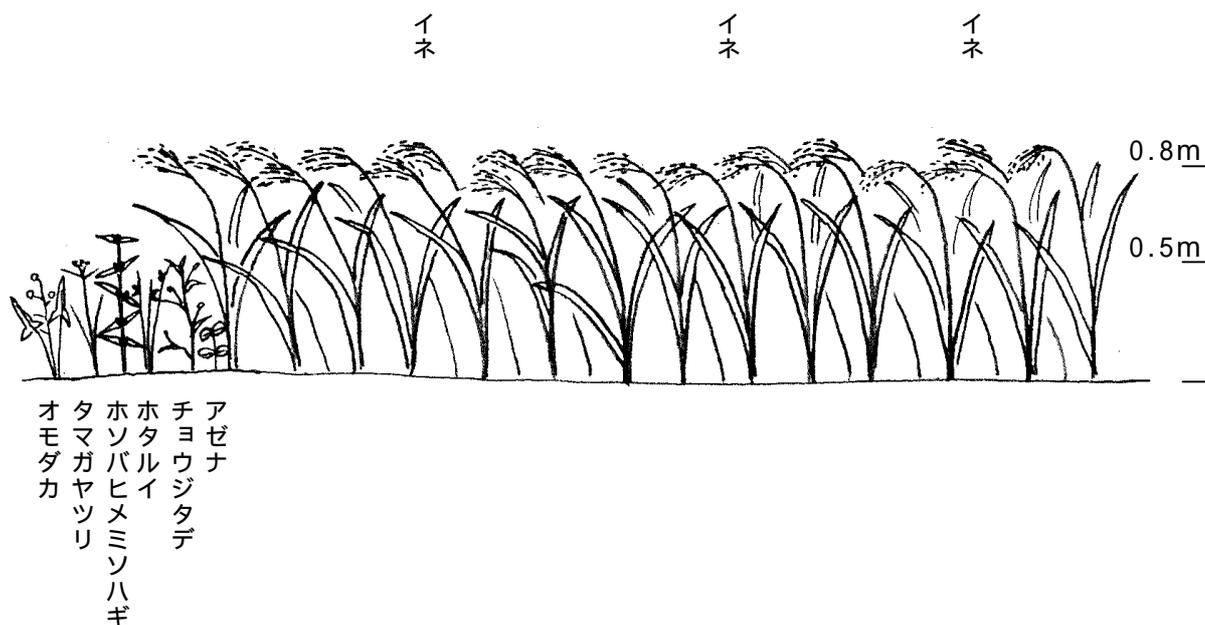


図 4-1-2 水田耕作地の模式断面図

### レンゲ(マメ科)



水田の緑肥として栽培され、あぜ、河川敷、路傍などに野生化している高さ 10~30cm 程の一年草<sup>(16)</sup>です。4~6 月頃、水田に赤紫色の花が咲く風景は、春の風物詩として昔から人々に親しまれてきました。若芽や花をゆでて食べたり、ミツバチの蜜源としても利用されます。市内では、低地の水田周辺で見ることができます。

【撮影：2002/4/3 北沢】

### ケキツネノボタン(キンポウゲ科)



水田、あぜなどの日当たりの良い湿性な場所に生育する高さ 30~50cm の二年草<sup>(16)</sup>です。植物体に毒を含み、4~6 月に見られる黄色い花は、早春の水田でひときわ目立ちます。和名は、毛が多く、キツネがすむような野原に咲き、葉がボタンに似ていることに由来するそうです。市内では、低地の水田周辺で見ることができます。

【撮影：2002/5/14 梅名】

### ウキクサ(ウキクサ科)



水田、池、水路など、流れの少ない水面に浮遊する水草です。7~8月に白く目立たない花を咲かせ、晩秋になると芽をつくり、水底に沈んで冬を越します。春になると浮き上がって、生長を開始します。繁殖力が盛んで、水田で密生すると、水温の上昇を妨げるなどの害を引き起こします。

【撮影：2002/4/3 梅名】

### オモダカ(オモダカ科)



各地の水田や浅い沼、湿地などに生育する高さ20~80cm程の多年草<sup>(20)</sup>です。人の顔型に似た葉を高くのぼすことから、「オモダカ」と名付けられました。8~10月になると、茎の上部の節に、白い花を3個つつ付けます。食用とされている「クワイ」はこのオモダカを改良したものです。市内では低地の水田周辺で見ることができます。

【撮影：2002/9/19 梅名】

### コナギ(ミズアオイ科)



水田や湿地、浅い湖沼などに生育する高さ20~30cmの一年草<sup>(16)</sup>です。東南アジア原産で、水田の伝播に伴って渡来し、「日本書紀」や「万葉集」にもその名を残しています。5月頃発芽し、8~10月になると、青紫色の花が、葉より低い位置につきます。本種は、腹痛の薬として使用されるそうです。低地の水田周辺で見ることができます。

【撮影：2002/10/10 梅名】

### タカサブロウ(キク科)



水田、湿った畑地、あぜ、湿地など、湿った場所に生育する高さ30~60cmの草本植物<sup>(14)</sup>です。世界の暖帯~熱帯に広く分布し、日本では、本州、四国、九州、西南諸島に分布しています。7~10月になると、直径1cm程の白い舌状花<sup>(34)</sup>を咲かせます。種子は熟すと黒くなり、水に流されて運ばれます。

【撮影：2002/9/9 梅名】

## (2)動物

低地の水田では、哺乳類 3 科 3 種、鳥類 19 科 29 種、は虫類 1 科 3 種、両生類 3 科 5 種、昆虫類 33 科 62 種のほか、ホトケドジョウ・タモロコ・ドジョウなどの魚類やモノアラガイなどの貝類も確認されました。

### 哺乳類

モグラ属の種・カヤネズミ・ハクビシンの 3 種が確認されました。モグラ属の種は、コンクリート製水路沿いに残された通り道により確認されました。カヤネズミは地元の方から、「巣を見たことがある」との聞き取り情報が得られています。本種はイネやススキなどの細長い植物の葉を編んで球状の巣を作ります。ハクビシンは糞によって確認されましたが、糞の中にはキンカンの皮・種子が含まれていました。本種はミカン等の果物が大好物なので、民家の庭先に植えてあるキンカンを餌にしているのでしょう。

### 鳥類

鳥類は他の環境と比較すると種類も数も多くありませんでした。水田面積も狭く、稲作期以外は乾田となるためか春・秋の渡り途中に一時的に立ち寄る鳥としては、春にムナグロとクサシギが見られたただけでした。湿潤な地を好む鳥類は少なく、コサギ・カルガモ・カワセミだけが水路を利用していました。全体的に周辺の市街地と行き来するスズメ・ムクドリ・ドバトなどが目立ちましたが、冬にはタシギ・タヒバリ・ツグミ・ホオアカなどの冬鳥が多数水田で餌をとっているのが観察されました。

### は虫類・両生類

は虫類では、ヒバカリ・アオダイショウ・シマヘビの 3 種が確認されました。ヒバカリは松毛川沿いの水田付近で一度確認されたただけですが、それほど珍しいヘビではありません。アオダイショウも同じような場所で見られましたが、近づくと警戒して木の上に逃げてしまいました。シマヘビは梅名の水田地帯では何度も確認されています。

両生類では、アマガエル・トノサマガエル・ツチガエルが生息し、佐野や山田などの山裾の水田では、シュレーゲルアオガエルも見られましたが、梅名のような平野部の水田では確認されていません。アマガエルは水があればたいいのところにすんでいて、夜になると「ゲッゲッ」とうるさいくらいに合唱します。トノサマガエルは畦などでよく見かけます。ツチガエルはあぜや小川・水路でよく見られます。ウシガエルは水田に近い松毛川で確認されていますが、実際には水田に入ることはほとんどありません。

### 昆虫類

水田が広がっていることから、稲の害虫として知られるイネミズゾウムシ・ホソハリカメムシ・イネホソミドリカスミカメが水田周辺に生えている雑草から採集されました。また、低地の池、湿地の水溜まりに産卵するハラビロトンボ・ナツアカネ・リスアカネといったトンボ類や、ヤマトトックリゴミムシ・トックリゴミムシといった水辺を好むコウチュウ類も見られました。チョウ類では、モンシロチョウ・ベニシジミ・ヤマトシジミなどが確認されました。

### シマヘビ



体長 85 ~ 150cm で、虹彩が赤く、褐色の体に 4 本の黒褐色の縦条があるのが特徴です。まれに全身真っ黒の個体も見られます。山地から低地に普通に生息していますが、水田地帯で見かけることが多いヘビです。

【撮影：2002/7/19 梅名】

### トノサマガエル



跳ねる力が強く、体長 9cm にもなるやや大きなカエルです。幼生は 7cm 程に達し、変態時の体長は 2 ~ 3cm あります。産卵は田植えが始まってから水田で行います。鳴き声は大きく、ガルルル...と聞こえます。

【撮影：2002/6/23 梅名】

### ツチガエル



体長 4 ~ 5cm の小型のカエルです。背面のイボが目立ち、イボガエルと呼ばれます。幼生は大きくて 4 ~ 8cm にもなります。主に水田や水路で見られますが、標高 600m の山間部の溪流にもすんでいます。

【撮影：2002/6/28 梅名】

### アキアカネ



体長約 38mm の中型のアカネです。低地の湿地や水田に生息し、9 ~ 10 月にかけてよく見られます。通称「赤とんぼ」と呼ばれるトンボの一つです。幼虫は低地の池などの止水で見られます。

【撮影：2002/9/24 梅名】